

第660回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2024年2月度 ——

◇ 開催日

2024年2月19日（月）

◇ 議題

<ラジオ番組>

「ホームケアクリニックたんぽぽ presents

～よりそうラジオ～未来へつなぐ介護バナシ」

放送日時：11月11日（土）13時00分～14時00分

◇ その他

九州朝日放送株式会社

第660回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2024年2月19日(月) 15時30分～16時25分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 6名

委員長	藤村	まこと
委員	上野	恵梨奈
委員	山根	久資
委員	副田	智幸
委員	サーズ	恵美子
委員	小柳	美佳

欠席委員数 2名

副委員長	田川	真司
委員	丸石	伸一

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森	君夫
執行役員 総合編成局長	木附	ゆかり
執行役員 報道情報局長	柴田	高宏
総合編成局 編成戦略部 部長代理	岡本	郡治
総合営業局 営業戦略部 部長代理	今里	毅
総合編成局 編成戦略部 (KBC MoooV) ディレクター	金子	哲也
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	吉岡	実
番組審議会事務局 (視聴者・広報室)	松永	俊郎

4. 議題

- (1) ラジオ番組 「ホームケアクリニックたんぼ presents
～よりそうラジオ～未来へつなぐ介護バナシ」
放送日時：2023年11月11日（土）13時00分～14時00分
- (2) 2月・3月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 1月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 少子高齢化に伴い「介護」は避けられないテーマで、体験談等を踏まえた適切なアドバイスを取り上げた素晴らしい番組だった。
- 本作により「11月11日は介護の日」であることを知った。ラジオ向けのテーマであり、介護について考える良いきっかけになった。
- 介護未経験者も聴きやすく、明るいトークスタイルで良かった。普段から関心を寄せる話題ではないが、番組を聴いて心境に変化があった。
- 家族の介護を行う上でのポイントが分かりやすく紹介されていた。高齢の家族がどう介護して欲しいのか、どう話し合うべきなのかを考える機会になった。
- ゲストの北原佐和子さんの明るい感じに好感を抱いた。話に説得力があり好印象だった。同じ立場の人に仲間意識が共有されたのではないかと。
- 普段から介護で悩む人たちの心のより所となるような番組があったらなと思った。
- 介護用品やリフォーム相談所を紹介する一方、公的制度なども取り上げる幅広い構成になっていた点良かった。
- 近畿大学の奥田祥子先生の話は社会や会社組織に向けて問題提起をしていた。働き方や就業規則の役割についても改めて考えさせられた。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 奥田先生が紹介した制度を北原さんが知っていたのか、介護サービスの利用者がきちんと制度を利用しているのかといった現場の実体験をもう少し聞きたかった。
- 多くのリスナーが「どうすれば自分は介護されずに済むか？」と考えたのではないかと。介護から抜け出す方法や治療など「救い」の情報が少し欲しかった。
- 音声だけではイメージがしづらい場面があった。特に車いすの場面は全く理解できなかった。ホームページを活用するなどして、分かりやすく伝える工夫があっても良いのではないかと。

- ゲストが女性ばかりであることが気になった。男性がいても良かったのではないか。
- パーソナリティーとゲストの声が似ていて、どちらが話しているのか分からない場面があった。
- アンケートの回答状況や若年層の関心、聴取率が気になった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 時間の都合で北原さんの話をじっくり聞くことができなかった。奥田先生の話の後に少し北原さんの感想を聞く場面があっても良かったと思う。
- 「どうすれば介護されずに済むか？」を紹介するという概念は全くなかった。介護からの抜け出し方や予防方法については、ぜひ続編に盛り込みたい。
- 本来は国で共通した制度が必要だが、自治体ごとに違いがあるのも実情だ。続編では、こうした課題に対して問題提起して海外の事例も紹介したい。
- 車いすの紹介は番組公式SNSで動画を公開したが、番組内での告知はできなかった。音声だけでは伝わらない部分があったのは反省点。
- ゲストが女性ばかりだったのは偶然だが、背景には介護職の賃金が低いことなどの理由が考えられる。
- アンケートは2000通以上寄せられた。切実な介護の状況を伝えるものや介護士の待遇改善を訴えるものもあった。「(今回の番組を)参考にしたい」というメッセージからは、番組がリスナーの方向性を考える一助になったとの印象を抱いた。
- 聴取率は調査していないが、radikoのデータで比較すると通常放送している音楽番組よりは低かった。また、メッセージを寄せていただいた年齢層は50代を中心に概ね40代から70代で、若年層は決して多くなかった。
- 啓発はメディアの責任。介護について普段から触れて、特番ではテーマを絞り込むことができれば理想だと思う。リスナーにとってより聴きやすくするための工夫を続けたい。

などの説明をしました。